

第1学年2組 保健体育科学習指導案

山梨大学教育人間科学部附属中学校
指導者 小田切 聡

1. 単元名 「球技～バスケットボール～」

2. 単元（球技）の扱いについて

本校では、第1学年における「球技」の領域は、バスケットボールとバレーボールの2種目を男女共習で実施している。第2学年では、前期（球技Ⅰ）にバスケットボールとソフトボール、後期（球技Ⅱ）にバレーボールとサッカーをそれぞれ選択制授業で実施している。第3学年では、前後期（球技Ⅰ・Ⅱ）ともバスケットボール、バレーボール、ソフトボール、サッカー、卓球の5種目から2種目を選択する選択制授業を実施している。

3. 運動の一般的特性（バスケットボール）

バスケットボールは、相対する2チームが、コート内を自由に走り回ってボールを奪い合い、ドリブル、パスなどでボールを進め、一定の時間内に相手のゴールにショットして得点を競い合うスピード感あふれる集団スポーツである。また、パスやドリブルでボールを進め、相手ゴールにショットしたり、相手のショットを防いだりして、いろいろなチームと得点を争うところに楽しさがある。

さらに個人だけでなく、チームに適した技術を習得することと、その過程にある課題を1つ1つ解決していくことで楽しさや喜びを味わうことができる。またゲームでは、攻撃側の数的優位な状況をつくり、シュートをたくさん打って得点をとることで、バスケットボールの楽しさや特性を味わうことができる。

4. 生徒の実態

1年2組の生徒は、男女とも仲が良く開放的な雰囲気がある。クラスの9割の生徒が運動部に所属しており、バスケットボール部員は2名である。4・5月に行った体力テストの結果では、女子の方が評価点が高く平均を上回る生徒が多く、男子は平均より劣る生徒が多かった。多くの生徒は体育（運動）が好きで、これまでにに行ったマット運動や柔道、水泳などに意欲的に取り組む姿勢が見られた。

バスケットボールについては、全ての生徒が小学校で行ってきているため、比較的取り組みやすいようである。技術面でボールコントロールや攻防での動きなどは思うようにできない生徒も少なくないが、失敗をおそれず意欲的に参加する生徒が多く、お互いに声を掛け合いながらチームで協力して取り組む姿勢が見られる。また、理解力は他クラスに比べると高くはないが、指導されたことに素直に取り組む、何度も練習することで技術の習得や向上が見られる。

新体力テスト分布表（1年2組）

	A	B	C	D	E
男子	0/1	0/5	7/33	11/32	2/9
女子	4/7	2/14	9/34	4/23	1/2

※学級20名の人数/学年80名中の人数

※体育実技の学習チェックとバスケットボールに関する調査の集計結果や、スキルテストの結果（度数分布表）は別紙資料に掲載。

5. 授業の構想、教師の指導観

1年生での取り組みであることから、今回の学習においては基本的な技術の習得を重視し

ていくことにした。そして、積極的に挑戦したり、粘り強くくり返し練習したりするような学習を展開させたいと考えている。そうした学習が実現できるため、以下のような点に留意していきたい。

- ・生徒の技能に対する意識調査を事前・事中・事後に行い、生徒の意識をできるだけ把握できるようにする。
- ・教師の師範や実技書の図解などから、まず技に対するイメージをしっかりと持たせ、その後の技術ができるようになるためのポイントやコツなどについて、自ら発見できるような学習を展開させる。
- ・目標や課題の持ち方が明確になるよう、スタート時には、教師が提示した学習課題を共通課題として全員に取り組みせ、徐々にチームの課題などが設定できるようにさせる。
- ・「何度も繰り返して取り組む」姿勢が技術の習得や向上には不可欠であることをしっかりとつかませ、そうした雰囲気をも大切にする学習の実現を心がける。

また、学習活動のグループは、ルーティンドリルの得点が平均的になるようにして行うことにした。個々の技能の違いを知る中でお互いの良さや弱点を認め合い、助け支え合える関係づくりにつながると考えている。積極的にできるような雰囲気も大切にしていきたい。

6. 全体研究との関わりについて

全体研究では、これまでの研究成果をふまえて、さらにより具体的な授業実践へと進めていこうと考えている。生徒は学んだ内容を別々の引き出しに一つ一つしまおうと必死になって覚えようとする。学習した内容が、すべて同じ重さとしてとらえており、それらを忠実にすべて記憶しようとする傾向が強い。しかし我々も経験があるが、本当に納得した、分かったというときは一つのことが、その周辺の事柄と有機的に結びついたときである。つまり、かかわりが見えたときなのである。そのかかわりがみえてくると、本質的で重要な事柄をきちんと習得しておきさえすれば、その他の事柄は、その本質的なことから自然に導かれてくるという状態を作ることができる。このかかわりを授業の中で意識的に生徒に見いださせたいと考えている。かかわりを見いださせたときを振り返ってみると、それは先生から与えられたものではなく、自分で試行錯誤し、苦労して得たものである。このような活動を各教科の授業の中で意図的に仕組み、生徒自らが、かかわりを見いだせるような授業を作りたいというのが全体研究のテーマ設定の理由である。

そこで、本校の保健体育科では次のように捉えて考えてみた。球技の単元における各種目の学習内容を分析し整理していくと、『ゴール型』『ネット型』『ベースボール型』の3つに分類することができる。ここで『ゴール型』の種目であるバスケットボールとサッカーの基礎・基本に着目してみると、シュートやドリブル、パス、スペースへの移動など共通する事柄が多いことに気づく。つまり、種目は違うものの学習内容の基礎・基本となる部分では関連性があるので、それぞれの指導においてその“かかわり”を見出せるような授業を創る（活動を仕組む）ことが全体研究とつながると考えている。

7. 単元目標

- | | |
|---------------------------------|------------|
| ○授業の約束を守り、仲間と協力しながら進んで運動に取り組もう。 | 【関心・意欲・態度】 |
| ○個人やチームの課題を明らかにし、その解決の仕方を考えよう。 | 【思考・判断】 |
| ○個人や集団での技術を習得し、向上させよう。 | 【技能】 |
| ○技術の習得方法やルール、審判法を理解しよう。 | 【知識・理解】 |

10. 本時の授業

- (1)日時：平成19年11月10日（土）
 (2)場所：山梨大学教育人間科学部附属中学校 体育館
 (3)対象：1年2組（男子20名 女子20名 計40名）
 (4)題材：球技「バスケットボール」（13時間計画の9時間目）
 (5)ねらい

- ①お互いに協力しながら、積極的に取り組むことができる。 【関・意・態】
 ②フロアバランス（スペース）を意識した攻防ができる。 【技能】
 ③ゲームで状況に応じた判断（移動やパス、シュートなど）ができる。 【思・判】

	学習内容	教師の支援	評価項目
はじめ 6分	<p>●コート、用具の準備と準備運動をする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体育館を3周走りながら、ボールハンドリングメニューを3種類行う。早く終わった人はシュート練習をする <p>●集合・挨拶をして本時のねらいを確認する。</p>	<p>○安全に配慮しながら行われているかを観察し、指導する。</p> <p>○短時間に集合できるように指導する。</p> <p>○落ち着いた雰囲気の中できちんと挨拶ができるようにする。</p> <p>○学習カードを活用し、前時の反省を生かしながら取り組めるよう指導する。</p>	<p>○早めに来て進んで活動しようとする【関②】</p> <p>○安全に配慮しながら準備運動をしようとする【関④】</p> <p>◆状況観察</p> <p>○本時の目標をしっかり持っている【思・判①】</p>
展開Ⅰ 15分	<p>●チーム内で3対2（セットオフェンス）の練習をする。</p> <p>OF</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空いているスペースの活用 ・3人の連動した動き（フロアバランスの意識） <p>DF</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守備のつき方 ・ブロック、リバウンドの意識 	<p>○協力して取り組んでいるか観察し、状況に応じて指導する。</p> <p>○コート（スペース）を広く使うことと、3人の連動した動きを意識して攻撃をしているか観察し、指導や助言をする。</p> <p>○DFは、ボールを持っている人へのチェックや相手との距離などを意識した守り方をしているか観察し、指導や助言をする。</p>	<p>○仲間と協力して取り組もうとする【関③】</p> <p>○フロアバランスを意識した攻防の動きができる【技能⑦】</p> <p>○練習内容の要点を理解している【知・理③】</p> <p>◆練習観察</p> <p>◆学習ノートチェック</p>
展開Ⅱ 20分	<p>●3対2のゲームを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ルールの確認する ・練習内容を意識したゲームをする ・積極的なシュートの意識 	<p>○ケガをさせない（しない）よう注意を促す。</p> <p>○攻撃の3人が全員ボールに触れてからシュートするように指示する。</p> <p>○チームで練習したことを意識しながらゲームを行っているか観察し、指導や助言をする。</p>	<p>○安全に留意しながら、ゲームに積極的に参加しようとする【関④】</p> <p>○フロアバランスを意識した攻防の動きができる【技能⑦】</p> <p>◆ゲーム観察</p> <p>○状況に応じた判断をしている【思・判④】</p> <p>◆ゲーム観察</p>
まとめ 9分	<p>●グループごとにお互いの活動を評価する。</p> <p>●本時の反省を学習ノートに記入する。</p> <p>●まとめの話を聞き本時を振り返るとともに、次時の学習内容を知る。</p>	<p>○お互いの良かったことや改善点を出し合うよう指導する。</p> <p>○素早く取りかかり、要点を絞って記入するよう指導する。</p> <p>○授業を振り返っての評価をする。</p> <p>○今日学んだり発見したりしたことを、次時に生かすように促す。</p>	<p>○成果や反省点を明確にすることができる。【思・判①】 【知・理②】</p> <p>◆巡回観察</p> <p>◆学習ノートチェック</p> <p>○要点を絞った記述ができる。【知・理①】</p>

※評価項目にある◆印は観察方法を示す。